

2017年(平成29年)

第117号

(9月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

世界宗教者平和の祈りの集い ～比叡山宗教サミット30周年記念～

比叡山宗教サミット30周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」(主催・日本宗教代表者会議)が8月3、4の両日、京都市の国立京都国際会館、大津市にある天台宗総本山・比叡山延暦寺などを会場に開催され、京都教会会員もボランティアとして運営に携わりました。

宗教サミットは1987年、故山田恵諦天台座主の呼び掛けで開かれ、その後10年ごとに海外の宗教者を招いて大規模な集いを催してきました。30周年の節目となる今回のテーマは、『今こそ平和のために協調を——分裂と憎悪を乗り越えて』。海外18カ国の諸宗教代表者を含む約2000人が参集しました。

開会式では、国内と海外からキリスト教、イスラーム教、仏教、ユダヤ教、ヒンズー教、ゾロアスター教の指導者ら計約50人がメインホールの壇上に並び、主催した日本宗教代表者会議事務総長の杜多道雄(とだどうゆう)・天台宗宗務総長のあいさつ、そしてローマ法王と世界仏教徒連盟会長、世界イスラーム連盟事務総長のメッセージを披露。この後、『分裂と憎悪をどうしたら乗り越えられるか』と題して明石康・元国連事務次長が、『暴力的過激主義に宗教者はどう立ち向かうか』と題してウィリアム・ベンドレイ世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)国際事務総長が、それぞれ基調講演を行いました。

基調講演を受けて、『テロと宗教——暴力的過激主義に宗教者はどう立ち向かうか』をテーマにシンポジウムを実施。イスラーム、キリスト教、ユダヤ教、仏教など諸宗教者7人のパネリストは、原理主義や過激主義を抑制するための対話の重要性、宗教の果たす役割などについて意見を述べ



られました。

夜には山科区の将軍塚青龍殿でグレゴリオ聖歌と天台声明、イスラームの聖典コーランの詠唱があり、平安時代から続く「不滅の法灯」の分灯がともる中、宗教者約300人が「鎮魂の祈り」をささげました。

4日午前には国立京都国際会館で「分科会」を実施。「核廃絶と原子力問題」「貧困の追放と教育の普及」のテーマに分かれて語り合いました。午後からは比叡山延暦寺境内の特設ステージで「世界平和祈りの式典」が挙行され、子供たちによる「平和の鐘」の音に合わせ参加者が「平和の祈り」を捧げた後、主催者を代表して同会議名誉議長の森川宏映・第二百五十七世天台座主があいさつ。「世界を覆いつつある『排除と孤立』ではなく『相互理解と連帯』こそが人類に平和と繁栄をもたらす」と述べました。

この後、同会議名誉顧問の庭野日鏡会長が同サミットで採択された「比叡山メッセージ2017」を宣言。メッセージは、テロや戦争、環境問題、核兵器廃絶、生命科学と倫理など多岐にわたって言及。30年前の宗教サミットで「宗教者は常に弱者の側に立つことを心がけねばならない」と宣言したことに対して「その責務を十分に果たしてきたとはいいいかない」と認め、さらに平和のために努力することを誓い、「憎悪と排除からは争いしか生まれず、忍耐強い対話と他者の存在を受け入れる努力こそ平和への近道だ」と締めくくりました。

時事刻々

九月になれば、各地で防災訓練が行われます。毎年のように大規模災害が発生しています。いざという時のために日頃からの訓練は必要です▼先日、兵庫県で行われた「親子防災教室」に行ってきました。阪神淡路大震災から二十二年がたち、子供たちにその体験を伝えていくことの大切さを強調されています▼京都では近年、大きな災害を受けた経験が少なく、防災に対する意識が弱いといわれています。しかし「災害は忘れたころにやってくる」と言われるように、絶対に来ないという保証はありません▼最近、周りとの関わりを避けたがる人が増えているように感じます。ところが、大災害に遭われた方々を見ると、互いに助け合う心を持っているとホッとさせられます▼昨今の訓練では、ペットの避難、心身が不自由な方への対応など、新たなニーズに 대응しようとしています。それだけに、日常から近所との関係づくりを心がけることが基本にあると感じます。

今月のことば ～「人に「伝える」ということ」～ 青年部 野田敦史

今月は、右京支部の野田が担当させていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。今月の会長先生のご法話は“人に「伝える」ということ”です。

初めに、臨済宗の松原泰道師のお言葉で「法は人のために説くのではなく、自分のために説くのだ」とありますが、私は既にこの段階で衝撃が走りました。

私は高校時代から、音楽を通じて人に教える事や伝えるという体験をさせて頂いていました。その時の私は、相手に技術を覚えてほしい。しっかりと大切なことを伝えていきたいと思って関わってききましたが、ご法話を拝読させて頂くと、そうではなかったことに気付かされました。

確かに思い返してみると、相手に技術を伝える時は自分がわからない事には伝えられませんし、質問にも答えることができません。そして何より、相手に教えることで自分自身が基礎を学び直すことができ、教えるほどに自分の理解がより一層深まってきたのだと思います。

そして、教えている人にもっと成長してもらいたいと願うと、自分自身ももっと向上しなくてはならないという自覚に立ち、知識と技術を学んでいきました。

いま感じることは、「相手に教えることで自分に力がつき、自分を高めさせて頂いていたのだ」ということが分かりました。

また、演奏の練習の時にさんざん言われていたのが、「自分が楽しまなければ、お客さんも楽しめない」ということです。しかもっ面で演奏していても、見ているお客さんは不安になるばかりで、心の底から楽しめなくなってしまいます。

逆に、演奏がおぼつかなくても楽しむことを忘れなければ、見ているお客さんも楽しんでくれます。「相手に楽しんでもらうには、まず自分から」そのことも、先のお言葉と通じるものを感じました。

次に私は、会長先生のご法話の後半を拝読して、「素直に伝える」ことの大切さを学びました。再び演奏の話になりますが、素直に楽しんでいる演奏ほどお客さんは喜んでくれます。それは楽しむことで、自然な笑顔や柔らかい聞きやすい音が出てくるからです。

人はなかなか繊細なもので、気持ちが入っているか入っていないかを敏感に感じるものです。逆に言えば素直な気持ちさえ伝えれば、ぎこちないものでも伝わります。それは言葉でも同様で、あまり深く考えすぎず、自分をさらけ出してありのままを伝えることも時には必要だと感じました。

そして会長先生は、“感謝ということは人間だけができること”と教えて下さっています。感謝を伝える方法は、様々だと思います。私は親のことをすぐに思い浮かべたのですが、親に対して率直に言葉で感謝を伝えるのもいいですし、孝行などの行動でもいいと思っています。ただそこに、素直な気持ちがあれば間違いなく伝わるのだと感じています。

今回、ご法話を読ませて頂いて思ったことは、「人に伝えるためには、人ではなく自分と向き合うこと。人に伝えるときは、素直な気持ちで伝えること」という事を気づかせて頂きました。

これからの生活の中で、感謝の気持ちを素直に言うように心掛けていきます。ありがとうございました。

合掌

戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日式典 ～戦争放棄を次世代へ～

8月15日、「戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日」式典が行われ、お盆休みで帰省した多くの会員等が参拝しました。式典のはじめに黙祷を行い、その後各支部代表による献鶴の儀を行いました。毎年壮年部が企画を担当し、今年は世界の現状についての関連映像放映や一食を捧げる運動についてのPR映像など、趣向を凝らしたものになりました。

佐藤教会長は法話の中で、「一食を捧げる運動は、松緑神道大和山教団の運動を佼成会が取り入れたもの」と、



この運動の歴史を紹介。法華経の精神に基づくものと解説しました。また「戦争をしないということ、若い世代の人達にリレーをしていく必要がある」とし、今月の「佼成」掲載記事の中から、「戦争は人の心まで変えてしまう」とその悲惨さを述べました。

そして「慈悲の慈は母の心、悲は父の心であり、両親の心を受け取って育んでもらいたい」と、後ろ姿で導くことが戦争犠牲者慰霊に繋がると結びました。



ニコニコキッズお泊り会 ～夏休みの少年部活動～

8月1～2日、京都教会において「ニコニコキッズお泊り会」を開催し、幼児17名、少年部31名、学生スタッフ8名の参加がありました。今回は「仏さま神さまに手を合わせ、協力し合える仲間づくり」を目的として設定。1日目はレクリエーション、石川学生部長さんの一食研修、婦人部長さんの一食献金の実践案内のほか、カキ氷を食べたり、陀羅尼品第二十六のご供養を法座席で幼児さんも一緒に行いました。夕食後は第二駐車場で花火を楽しみました。2日目は、6時のご供養のあとラジオ体操をして身体を動かし、朝食後、蹴上の日向大神宮へ参拝しました。

大神宮では、外宮、内宮の参拝と、天の岩戸くぐりも体験しました。昼食はみんなでワイワイ流しそうめんをして楽しんだ後、閉講式では分かち合いの法座をして班ごとに感想発表を行いました。「みんなとすぐに友達になれて楽しかった」「天の岩戸くぐりは洞窟だと思って楽しみにしていたのに短くて残念だった」「ご飯が美味しかった」と参加者から素直な発表のほか、学生スタッフからは「子どもたちが頑張っている姿を見られて嬉しかった」「今までは参加者だったけど、スタッフとしてお世話する側の喜びを感じられて嬉しかった」と次につながる感想がありました。



ご先祖さまを思いで ～命のつながり「糸」を感じて～

7月15日、京都教会法座席で盂蘭盆会式典が開催され、多くの会員が参拝しました。

今年のテーマは「仕合せを味わう心 ～先祖供養と親孝行～」。テーマに相应しく各支部代表による奉獻の儀、読経供養、説法に続き佐藤教会長のかみしめ、最後に中島みゆきの「糸」を全員で合唱しました。

佐藤教会長はかみしめの中で、12,295体のお戒名と1,848家の先祖代々があったことを報告。その読み上げに壮年部を中心に96名のお役者があったと述

べ、大勢の方の協力で今回の式典が出来たと話しました。また説法者2名の内容にふれ、「人生における苦しみ悩みのお陰さまで求道心が芽生え、また、会社でのトラブルのお陰さまで人間的に大きく変われるきっかけを頂けたのだと思います」と、かみしめました。

そして「信仰すると幸せになるのではなく、仕合せとはどういうことかが分かってくるのです」と述べ、目の前の人に喜んで頂く菩薩行と、より一層の精進を促し、結びの言葉としました。



法華經にみる平和の教え『法華經の世界観』～庭野開祖著『平和への道』より～

前回は、庭野開祖が昭和38年に核兵器禁止宗教者使節団の一員として渡欧され、ローマ教皇パウロ6世と対面されたところまで見てまいりました。その後の行程についてまとめていきます。 (編集部)

核兵器禁止宗教者使節団の一行は、訪問した方すべてに次の「平和提唱」を手渡しました。

.....

★平和提唱(原文)★

米・英・ソ政府の断固たる決断と、当該国民の絶大な支持により、部分的核停止条約が成立したことは、全人類にとって最大の福音である。

殊に、核兵器保有国が、その世界観ならびに世界政策において根本的対立を持ち、相互不信感が存するにもかかわらず、部分的核停止条約が成立したということは、人類が暗黒より光明へ、破滅より共存への第一歩を踏み出したものであり、われわれはここに改めて人間の英知を再発見し、人類の将来に対し、輝かしい希望を新たにするものである。われわれ宗教関係者は、この歴史的大決戦の背後に、目に見えざる偉大な力が働いていることを悟り、感謝にたえない。この喜ばしい時に際し、われわれはこの勢いを一層促進する目的をもって、つぎの三点を提唱する。

1. 核兵器実験の全面的、かつ無条件の禁止をすること。
2. 核兵器の生産、貯蔵、使用の全面的禁止をすること。
3. 国際協力に基づく原子力平和利用により、富の不平等を克服し、人類の福祉を増進すること。

われわれは、この理想を実現するためには、世界宗教家の全面的協力が必要であることを痛感し、ここに以上の提唱を行う次第である。

昭和38年9月 核兵器禁止宗教平和使節団

.....

次に、一行はスイスのジュネーブへ飛び、W・C・C(キリスト教の世界宗教教会協議会)のヴィザート・フト総主事と懇談しました。そのとき同総主事が言われた「多くの人々は、真の平和は、とても高い所にあつて、小さな努力をしてもムダだ、と知っているでしょうが、わたしたちは、そうした悲観的な考えは間違っていると思う」という言葉は、非常に印象的でした。

それから一行は、フランス、ソ連、西ドイツ、イギリス、アメリカなどを訪問しました。ところが、この使節団の主たる目的が核兵器に関するものであったために、各国の政治家はとりわけ神経を使つたらしく、ソ連のフルシチョフ首相やアメリカのケネディ大統領をはじめ、各国の首脳者とは会見できませんでした。

しかし、ウ・タント国連事務総長、ロシア正教主教エブリアン・エリノブス氏(ソ連)、カンタベリー大司教ラムゼー博士(イギリス)、アジア大洋州局長マナック氏(フランス)、国連軍縮局長アレキサンダー氏(アメリカ)ら主要人物と話し合うことができました。こうした方々は、わたしどもの提唱に対して、それぞれ表現こそ違え、いずれも全面的に賛意の言葉を述べておられました。

特にお会いした人々が異口同音に言われたことは、「被爆国の日本こそ核兵器禁止運動のイニシアティブを取るべきである」ということでした。わたしたちは被爆という災禍を転じて福となす意味においても、そしてまた原爆機犠牲者の霊を慰め、二度とこの恐ろしい惨劇を起こさぬためにも、われわれ日本人の担う役目はまことに重大であると痛感しました。

もう一つ大事なことがあります。この使節団の副産物として、たくさんの宗教家たちが、各自の宗派を超越して、その心において、目的において、行動において、予期した以上にお互いが裸になって理解し合い、協力し合えたことです。

わたしは、日ごろから叫び続けてきた宗教協力が、ほのぼのとした暁を迎えつつあることを実感し、言い知れぬ喜びを覚えたのでした。そして、誰が言ったか忘れましたが、有名な次の言葉をつくづく胸に噛みしめたのでした。

「一人では何もできない、しかし、一人が始めなければ何もできない」

9～10月の主な教会行事

●メッセージ

9月1日(金)	9:00～	朔日参り
4日(月)	9:00～	開祖さまご命日
10日(日)	9:00～	脇祖さま報恩会
15日(金)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
24日(日)	9:00～	秋季彼岸会
10月1日(日)	9:00～	朔日参り
4日(水)	9:00～	開祖さま入寂会
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
12日(木)	7:00～	議員懇話会
15日(日)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

72回目の終戦の日を迎えました。そのたび、日本国憲法成立までの経緯や解釈の話しが持ち上がり、集団的自衛権まで展開していきます。アメリカからの押し付けだったのか、日本人自ら作ったものなのか、その歴史さえ記憶する人も少なくなり、議員でさえ同じことが言えます。

私たち佼成会員は日常生活をご法に照らし合わせ、分からないことがあれば先輩幹部さんに教えて頂くことがあります。日頃の生活の中で憲法を意識しませんが、憲法によって守られ生かされているはずで、一人ひとりが憲法を学び、自分のものにしたいものです。